まなびすと

スクールホットライン

教育講演（ひとり語りと弾き語り）

from 志水小学校

二月三日(月)、子どもたちの豊かな心を育てる教育の一環として講演会を開催しました。

講演者は鬼頭隆氏と娘さんの鬼頭瑞希さんです。鬼頭氏は三十年程前から童話を執筆され、地域では「吟遊おじん」と呼ばれ、瑞希さんはシンガーソングライターピアニストとして活躍されています。

今回の講演ではおじん(鬼頭隆さん)が、瑞季さんのピアノ伴奏に乗せて二つの童話を語ってくださいました。語りとピアノが一つになり、話の内容がまるで映像化されたように感じられました。

「飛んでけ　ウグイスカンタロー」では、飛ぶのがまだまだ上手ではないカンタローが、連れ去られた友達を助けるために必死で練習して友達を助けたことに、児童は感動していました。

また、「六年四組高島学級　お笑い芸人」では、苦しい環境にいる少年が、自分のことを見守っていてくれる人がいることの幸せを感じていました。

瑞季さんは、「動物園シリーズ」「みんなは小学生」「私のあの子」の三つの作品をピアノで弾き語ってくださいました。

「動物園シリーズ」はペンギンやシロクマなどがコミカルに歌で表現されており、児童はワクワクしながら楽しそうに聴き入っていました。

「みんなは小学生」では児童の目線で捉えた小学校生活を伸びやかに歌ってくださいました。

「私のあの子」は瑞希さんご自身の受けた辛いいじめ体験を歌い上げた作品でした。

人を愛することや信じ合うこと、友情について、どのように向き合っていけばよいのか、児童だけでなく私たち大人も深く考えることができました。

豊山今昔ものがたり

第百六十四話　命がけの軍帽

戦争の最中飛行場に勤め、被服の世話係をした人のお話です。

その日はうだるような暑い日でした。満州から編成されて豊山百五部隊に四日間駐屯し、明日はフィリピンへ立つという兵隊さん。どの人を見ても汚い服や下着、ズボン下はシラミがいっぱい付いていました。係の六人で大風呂を沸かし、熱湯でゴトゴト煮ました。

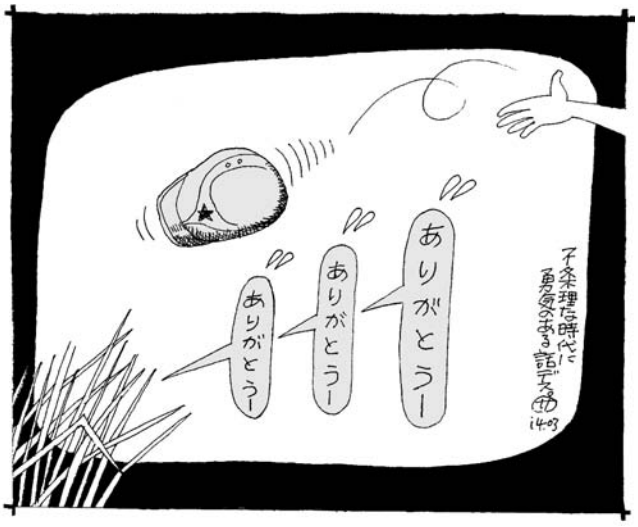
倉庫内で員数調べをしていると、一人の兵が「おばさん、おばさん」とひそかに呼んで近づいてきました。

「私に帽子をひとつください。ここへ来る途中の船旅で、海へ帽子を落としました。その帽子がないと、今すぐ懲罰房に入れられます。どうぞ助けてください」と手を合わせて涙ながらに頼むのでした。

軍律の厳しさを承知の上、とっさに帽子をあげる決心をしました。息子も戦場に行っています。必死に頼んでいる兵と息子を重ねて考えたのです。例え自分が今日からくびになっても後悔しまい、と一大決心をしました。

黙ってうなずき、窓から帽子をひとつ力いっぱい投げました。「ありがとう、ありがとう、ありがとう」と合掌し、背丈ほどもある草むらの中を後ろ向きに歩いて、建物の陰に消えました。その姿は今でもまぶたに残っています。

戦地へ立つ兵士には、シャツ靴下はもちろん、弁当箱、防塵めがね、柳行李など四十五品ずつそろえて渡しました。その人は無事にフィリピンへ着いたでしょうか。

今は昔の物語です。

（豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました）